

**国井技術士設計事務所:コンサルタント&セミナーメニュー**

お帰りの際に、ご提出ください。  
以降の活動に反映いたします。

会社名	氏名

番号	講座名	テキスト用書籍番号 (添付する書籍案内を参照)	選択優先度 (○印を付ける)
1-1	技術者向け コミュニケ・プレゼン・スキルアップ講座	オリジナルコピーテキスト	A B C
1-2	累積公差計算法 / 公差設計の理解と演習	1	A B C
1-3	図面を描く前の部品費と型費の概算見積り法	1+6の抜粋コピー	A B C
1-4	加工法を理解した低コスト化設計	1	A B C
1-5	「設計書ワザ」で勝負する技術者となれ!	2	A B C
1-6	二番手が勝つ! 競合機分析法	2	A B C
1-7	3割ダウンを実体験する超低コスト化手法	オリジナルコピーテキスト	A B C
1-8	トラブル再発完全防止の新FMEAと新FTA	4、もしくは5	A B C
1-9	MDR(ミニデザインレビュー)の実際と活用法	5	A B C
1-10	板金/樹脂/切削部品における実務設計のノウハウ	3	A B C

**次ページへ続く**

Copy right(C)2011 国井技術士設計事務所 All rights reserved.

**前ページの続き**

番号	講座名	テキスト用書籍番号 (添付する書籍案内を参照)	選択優先度 (○印を付ける)
1-11	電卓レベルのやさしい「実践版 品質工学」	オリジナルコピーテキスト	A B C
1-12	省エネ技術で学ぶ機械要素とその設計ノウハウ	オリジナルコピーテキスト	A B C
1-13	トラブルの未然検出法とその完全対策法	4	A B C
1-14	これで十分! 機械材料の最適な選択法	6	A B C
1-15	門外不出! 樹脂設計のAからZまで	3+(1と6の抜粋コピー)	A B C

以上のメニューは、単なる思いつきではなく・・・

当事務所が14年間の設計コンサルタントを通じて得た日本企業を元気にする、まさしく「がんばれ! 日本」や「日本復興!」のための健康サプリメントです。

次ページ以降は、これらの詳細内容です。是非、お読みください。

Copy right(C)2011 国井技術士設計事務所 All rights reserved.

## 各セミナーの内容を詳細に説明します。

番号	講座名	詳細内容
1-1	技術者向け コミュニケーション・プレゼン・スキルアップ講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術の最高峰は、「コミュニケーション能力」である。コミュニケーション、プレゼン能力がなければ技術ディスカッションは不可能となり、設計審査も「お通夜」の状態となり形骸化する。</li> <li>・技術論文や技術報告書の「書き方」のコツを指導する。</li> <li>・技術成果発表会などのプレゼン用パワーポイントの作成方法と聞き手を引き付ける「話し方」を指導する。</li> <li>・演習を含む「1日コース」である。</li> </ul>
1-2	累積公差計算法 / 公差設計の理解と演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最適公差の設定は、低コスト化設計の基本である。</li> <li>・しかし、世界の工業国の中で日本人技術者だけが「累積公差計算」ができない。なぜならば、教科書と講師が存在しないからである。</li> <li>・累積公差計算法を各種の例題を解きながら理解する。</li> <li>・演習を含む「半日コース」である。</li> </ul>
1-3	図面を描く前の部品費と型費の概算見積り法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図面を描いた後にコストを把握したらもう遅い。およそいくらであるかの概算見積りは、設計段階で算出する能力が必須である。</li> <li>・板金/樹脂/切削部品の概算見積り方法を習得する。</li> <li>・上記に関する型費の概算見積り方法を習得する。</li> <li>・演習を含む「1日コース」である。</li> </ul>

Copy right(C)2011 国井技術士設計事務所 All rights reserved.

## 各セミナーの内容を簡単に説明します。

番号	講座名	詳細内容
1-4	加工法を理解した低コスト化設計法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年、加工不可能な図面が無責任に出図されている。</li> <li>・加工法の理解なしに「良い図面」は描けない。</li> <li>・本講座は、頻度の高い加工法に注力し、板金/樹脂/切削部品の加工法を理解した「良い図面」が描けることに注力している。</li> <li>・加工しやすい図面は、低コスト化に繋がることを理解する。</li> <li>・演習を含む「1日コース」である。</li> </ul>
1-5	「設計書ワザ」で勝負する技術者となれ！	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の工業国の中で、日本の技術者だけが設計書を作成できない。</li> <li>・設計書がないのに「ISO9001の設計審査を実施している」という。</li> <li>・設計書の作成と設計書による設計審査は、開発の効率化に繋がる。</li> <li>・本講座は、設計書の書き方と開発の高効率化を学ぶ。</li> <li>・また、初期の試作を設計書の中で実施する「高速設計」を学ぶ。</li> <li>・演習を含む「1日コース」である。</li> </ul>
1-6	二番手が勝つ！競合機分析法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本企業の弱点の一つが「競合機分析」を実施していないことにある。実は、「実施していない」ではなく、「実施できない」のが現状である。</li> <li>・業界2位、3位の企業が業界1位の座を獲得する一方法を学ぶ。</li> <li>・上記「1-5」の応用講座の位置付けとなっている。</li> <li>・演習を含む「1日コース」である。</li> </ul>

Copy right(C)2011 国井技術士設計事務所 All rights reserved.

## 各セミナーの内容を簡単に説明します。

番号	講座名	詳細内容
1-7	3割ダウンを実体験する 超低コスト化手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低コスト化の手法(=道具)には、定番のVE/QFD/品質工学/TRIZ/標準化の5種が存在する。</li> <li>・また、新手法としては、モンテカルロ法/コストバランス法が存在する。</li> <li>・しかし、世界の工業国の中で日本人技術者だけが「低コスト化」の手法を使用していない。下請け企業への圧力と気合いである。</li> <li>・本講座はコストバランス法を基本に、VE/TRIZの中から簡単な手法を抜き出し、負荷のかからない「コストバランス法」を指導する。</li> <li>・演習を含む「1日コース」である。</li> <li>・即効果を出す実践版は、「2日コース」となる。</li> </ul>
1-8	トラブル再発完全防止の 新FMEAと新FTA	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社告・リコールが繰り返され、その損失規模が拡大している。</li> <li>・そこで登場するのが「事故未然防止策」のFMEA/FTAであるが、古い「計算尺時代のFMEA/FTA」は、表の完成を最終目標に、現場技術者達の大きな負担となっている。。従って、その効果は希薄である。</li> <li>・本講座は、「技術者の、技術者による、技術者のためのFMEA/FTA」であり、新FMEA/新FTAである「3D-FMEA/3D-FTA」の作成方法と有効的な活用方法や審査方法を指導する。</li> <li>・「新FMEA」のみの場合は、演習を含む「1日コース」である。</li> <li>・「新FMEAと新FTA」の場合は、「2日コース」となる。</li> </ul>

Copy right(C)2011 国井技術士設計事務所 All rights reserved.

## 各セミナーの内容を簡単に説明します。

番号	講座名	詳細内容
1-9	MDR(ミニデザインレビュー)の 実際と活用法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ISO9001において、デザインレビュー(DR)は必須の開発行為となっている。しかし、設計の「審査」であるはずのDRが「技術説明会化」し、形骸化している。</li> <li>・また、前記の古いFMEA/FTA同様に、現場技術者達の大きな負担となっている。これでは効果が期待できない。</li> <li>・本講座は、「技術者の、技術者による、技術者のためのDR」である。</li> <li>・本講座は、現場技術者達の負担を軽減させたミニデザインレビュー(MDR)の賢いやり方を指導する。</li> <li>・演習を含む「1日コース」である。</li> <li>・即効果を出す実践版は「2日コース」となる。</li> </ul>
1-10	板金/樹脂/切削部品における 実務設計のノウハウ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かつて、機械系技術者が一人前になるためには10年かかるといわれていたが、今は、そのような時代ではなく「即戦力」が求められている。</li> <li>・機械部品の板金/樹脂/切削部品に関して、一気にベテラン設計となるための設計ノウハウを習得する。</li> <li>・加工しやすく、トラブルのない設計と低コスト化設計へと導く。</li> <li>・「お料理本」のように懇切丁寧に指導する。</li> <li>・演習を含む「1日コース」である。</li> </ul>

Copy right(C)2011 国井技術士設計事務所 All rights reserved.

## 各セミナーの内容を簡単に説明します。

番号	講座名	詳細内容
1-11	電卓レベルのやさしい 「実践版 品質工学」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意外や、品質工学はあまり使用されていない。その理由は、講師の解説が概論から始まり、難解な「品質工学」を講義しているためである。</li> <li>・本講座は、実績のある「品質工学ソフト(たったの¥5000)」を使用し、「品質工学」ではなく、「品質工学」の利用方法、つまり、実践を指導する。</li> <li>・英語で言えば、英文法ではなく英会話を教え、英語の楽しさを理解することに相当する。</li> <li>・演習を含む「2日コース」である。</li> <li>・即効果を出す実践版は、「3日コース」となる。</li> </ul>
1-12	省エネ技術で学ぶ 機械要素とその設計ノウハウ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機械要素とは、「モータ」、「クラッチ」、「ソレノイド」、「玉軸受」、「すべり軸受」、「軸受シール」、「オイルシール」、「Oリング」、「磁性体シール」、「グリース」、「導電性グリース」、「ギア」、「各種のベルト」、「慣性モーメント」、「伝達効率」などを言う。</li> <li>・これらをひとつ一つ学んでも、用語しか理解できないのが従来の講座であった。</li> <li>・本講座は、現在、最も注目される「省エネ」を切り口に、前記の機械要素を賢く設計するノウハウを習得する。</li> <li>・演習を含む「1日コース」である。</li> </ul>

Copy right(C)2011 國井技術士設計事務所 All rights reserved.

## 各セミナーの内容を簡単に説明します。

番号	講座名	詳細内容
1-13	トラブルの未然検出法と その完全対策法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社告・リコールが繰り返され、益々、巨大化している。また、「想定外」という言葉も大震災後は響感(ひんしゆく)をかう用語となっている。</li> <li>・技術者には「未然事故防止」の開発活動が必須である。そこですぐに「FMEA/FTA」という手法が出るが、多くの企業で役に立っていない。</li> <li>・本講座は、FMEA/FTAを有効活用するための基礎力を養う講座として位置付けられる。どんなにすばらしい道具でも、その使い方を知らなければ「宝の持ち腐れ」と言われる。</li> <li>・本講座は、大手電機会社では「一気に10年先輩を追い越す講座」と命名され、技術者としての基礎知識と感性を「トラブルの未然検出能力」と「その完全対策能力」で養う。技術者必須の講座である。</li> <li>・演習を含む「1日コース」である。</li> </ul>

Copy right(C)2011 國井技術士設計事務所 All rights reserved.

## 各セミナーの内容を簡単に説明します。

番号	講座名	詳細内容
1-14	これで十分！ 機械材料の最適な選択法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意外や、日本の技術者は最適な材料を選択できず、前任機の図面の材料欄をそのまま写しとっている。料理人なら驚愕する行為である。</li> <li>・料理とは、限られた食材で最高の料理を提供する。これが、プロの料理人である。設計とは、限られた材料で最高の設計を提供する。これが、プロの設計者である。</li> <li>・本講座は、板金/樹脂/切削部品に関して、汎用性のある材料にランキングを付け、優先順位の高い順番に「材料特性」を理解する。</li> <li>・演習を含む「1日コース」である。</li> </ul>

Copy right(C)2011 國井技術士設計事務所 All rights reserved.

## 各セミナーの内容を簡単に説明します。

番号	講座名	詳細内容
1-15	門外不出！ 樹脂設計のAからZまで	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かつて、「機械設計者は、鋳物の設計ができて一人前」といわれていたが、今や、「樹脂設計ができて一人前」である。「樹脂設計が機械設計を制す」とまで言われている。</li> <li>・しかし、学校では「樹脂材料」、「樹脂設計」のカリキュラムは皆無であり、企業内においても2007年問題で教育が困難になっている。</li> <li>・本講座は、「樹脂設計」に特化し、その部品費や型費の概算見積り、最適な樹脂材料の選択法、樹脂の最適公差、トラブルランキングとの対策法など、ベテラン設計者が有するすべてのノウハウを一気に伝授する。</li> <li>・演習を含む「1日コース」である。</li> </ul>

以上、ご検討をお願いします。

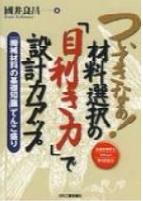
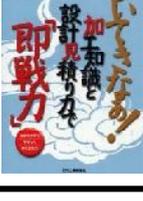
Copy right(C)2011 國井技術士設計事務所 All rights reserved.

設計のQCDを改革します！

## 國井技術士設計事務所

設計コンサルテーションに関するご要望は、当事務所のホームページ内に記載の「ご注文・ご質問・ご連絡コーナー」から送信できます。お待ちしております。

國井技術士設計事務所のURL <http://adf.web.infoseek.co.jp/>

6		<p><b>ついてきなあ！材料選択の「目利き力」で設計力アップ！</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2011年3月18日出版開始！</li> <li>・ 機械材料の実務知識のてんこ盛り。</li> <li>・ 使用頻度の高い実用的な材料データだけを提供し、若手技術者へは実務優先の基礎知識を、中堅技術者へは材料の標準化による低コスト化設計を促しました。</li> </ul>
5		<p><b>ついてきなあ！設計トラブル潰しに「匠の道具」を使え！</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2010年の12月20日に出版開始！</li> <li>・ 役立たずのFMEA、FTA、デザインレビューをここに蘇らせました。</li> <li>・ 「管理者の、管理者による、管理者のためのFMEAとデザインレビュー」を、「設計者の、設計者による、設計者のための・・・」に変えました。</li> </ul>
4		<p><b>ついてきなあ！失われた「匠のワザ」で設計トラブルを撲滅する！</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2010年10月20日に出版開始！</li> <li>・ 失われた「匠のワザ」をここに復活させました。</li> <li>・ その「匠のワザ」とは、トラブルを決して再発させない極意です。</li> <li>・ 大手電機会社の「10年先輩を追い抜くコース」のメインテキストに採用されました。</li> </ul>
3		<p><b>ついてきなあ！加工部品設計で3次元CADのプロになる！</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2010年2月10日に出版開始</li> <li>・ 社)日本設計工学会・「武藤栄次」賞: Valuable Publishing賞連続受賞(2011年度)</li> <li>・ 3次元CADは、「豚に真珠」、「猫に小判」と言われて、金食い虫です。</li> <li>・ でも、ご安心！メカ設計の初心者を一気にベテラン技術者に導きます。</li> </ul>
2		<p><b>ついてきなあ！『設計書ワザ』で勝負する設計者となれ！</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2009年4月25日に出版開始</li> <li>・ 社)日本設計工学会・「武藤栄次」賞: Valuable Publishing賞連続受賞(2010年度)</li> <li>・ 日本初！・・・設計書の書き方と設計戦略を、「大工の厳さん」が導く！</li> <li>・ 設計書を書かない、実は書けない日本人技術者に「大工の厳さん」が濁！</li> </ul>
1		<p><b>ついてきなあ！加工知識と設計見積り力で『即戦力』</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2008年5月23日(金)に出版開始</li> <li>・ 社)日本設計工学会・「武藤栄次」賞: Valuable Publishing賞 受賞(2009年度)</li> <li>・ 日本初！・・・累積公差計算法(実務用)を公開</li> <li>・ 日本初！・・・設計見積り(設計コスト)の方法を公開</li> </ul>